

## 全労済協会 慶應義塾大学経済学部寄附講座

### 「公共私による新しい福祉価値の創造」

第10回 2020年12月8日

#### 「サステナビリティ／SDGsへの取り組み」

旭化成株式会社 サステナビリティ推進部 徳永達彦氏

#### ■多様性と変革力で社会の課題に立ち向かう会社

今回の講座のテーマは、私が所属している旭化成の「サステナビリティ／SDGsへの取り組み」についてです。そもそも旭化成とはどのような会社なのか、持続可能な社会へ向けてどのような取り組みを行っているのか、そして、持続可能な社会への貢献に向けて旭化成としてどのようなことを考えているのかをご紹介します。と思います。

旭化成は約100年前に創業された会社です。現在は、資本金1,034億円、売上高は2兆1,516億円（2019年度）、営業利益1,773億円（2019年度）、従業員数は40,689人（2020/3末）となっています。4万人とはどのくらいの規模か、想像ができますか？ 慶應義塾大学の学生が約3万人と伺っておりますので、そこから考えるとイメージしやすいのではないのでしょうか。会社は主に3つの事業領域を柱としています。1つはマテリアル、素材関係の事業です。わかりやすいところでは、サランラップやジップロックといった消費材から、インドの衣装「サリー」の繊維、車のタイヤのゴムの素材、オムツの素材、車のシートの素材など幅広く扱っています。もう1つは住宅、建材の提供といった事業で、ヘーベルハウスで知られていると思うのですが、耐震、耐火性能に優れた頑丈な住まいや建材を提供しています。他にも高齢者向けの賃貸住宅事業なども行っております。さらに、ヘルスケア事業です。世界の大きな医薬品会社に比べれば規模は小さいのですが、整形外科や救急救命、人工透析のモジュール、AEDなど特化した分野では強い会社です。

このように旭化成は色々な事業を行っているため、100年間、戦後の混乱期やバブルの崩壊、そして今回の新型コロナの蔓延と色々なことがあっても、営業利益が赤字になることなくやってこれました。会社は、人が増えるほどグループとしての理念やビジョンが大切になります。私たちは、世界の人々の“いのち”と“くらし”に貢献しよう、というグループの理念を持っています。世の中にとって良いことをしようという思いは、100年前の創業時から変わっておりません。その時々々の社会課題やニーズに、多様性と変革力を持って立ち向かおうとしている会社です。現在であれば、持続可能な社会の実現やSDGsが課題であり、我々はそういったところに向かっていくということです。

#### ■旭化成グループの姿勢を表現した「Care for People、Care for Earth」

持続可能な社会に向けた問題提起として、私たちはたくさんの方々のコマーシャルのシリーズを打ってきました。例えば「暑さが、人災になっている」というコマーシャルは、アジアのヒートアイランドは地球の熱ではない、私たちの暮らしの熱だ、と続きます。このように問題を提起して、旭化成は何をやっているかということ、かつてない性能の断熱材を開発し、住まいの省エネを進め、熱の排

出を抑える取り組みをしています。同じように、水に対する問題提起や難病に対する問題提起も行ってきました。

2019年からは、サステナビリティを中心に置いた中期経営計画を作成し、今は2年目として様々な活動に取り組んでいるところです。グループの姿勢を「Care for People、Care for Earth 人と地球の未来を想う」と表現し、SDGsを強く意識した事業を展開しています。そうになると、社員がいかにSDGsを理解するかが大事です。環境学者のヨハン・ロックストローム氏はSDGsの17の目標をウェディングケーキに例えて、ベースになるものは生物圏だとし、その上にあるものを社会、そして経済の発展として、それを貫くものがパートナーシップであると整理しています。私たちは、ベースになるのがCare for Earth、その上にCare for Peopleがあって、それらを貫くものはConnectであると考えています。旭化成では、社内の組織をつなぐ、内部と外部をつなぐ、異なる事業領域をつないで新しい価値を作るという意味でConnectという言葉をよく使うのですが、できるだけわかりやすい言葉で価値を共有することが大切だと考えています。

### ■80億人がこれまでと同じ暮らしをしたら地球が保たない

なぜSDGsへの取り組みが大切なのか？ それは世界の人口推移を見れば一目瞭然なのですが、産業革命以降、人口は急激に増加し、現在は約80億人となっています。これだけの人々が今までと同じ暮らしをしていたら、地球が保ちません。

ここで、皆さんへ問いかけをさせていただきます。大気でのCO2濃度は現在どの程度でしょうか？ 1. ~1%、2. 1~10%、3. 10~30%、チャットで回答をお願いします。——正解は1番ですね。CO2の量は、今0.04%位と言われています。少なく感じるかもしれませんが、この数値は上昇してきています。これを止めて、2050年にはCO2の排出量をゼロにしなければなりません。そのためには製造部門の排出をゼロにすることだけを目指しては意味がありません。転換部門や運輸部門、家庭部門などの排出量も下がらなくてははいけません。同じように世界の中で日本のCO2の排出量は3.5%です。日本だけゼロを目指すのではなく、日本の技術、化学の技術で世界の排出量を減らすことを考える必要があります。

### ■目的を常に意識し、一面的な見方をしない

私たち人間は、普段、興味のあるところしか見ていません。逆に言えば、意識をすれば違うものが見えてきます。目的を常に意識すること、一面的な見方（思い込み）をしないことが大切です。疑うことからイノベーションが生まれる場合もあります。持続可能な社会の実現に向けて、我々にできることは無限にあります。旭化成も、皆さんもそうです。常に意識を持つ（Care for People、Care for Earth）、多面的に見る（多様性、Connect）、卓越した技術をベースにして徹底して磨く。そうすれば、必ず解決策は生まれてくると思います。持続可能な社会の実現に向けて、ともに考えていきましょう。

<文責：全労済協会調査研究部>